

# 第4回 浜松市津波防災地域づくり推進協議会 資料3

平成26年3月17日  
浜松市

## 目 次

1 津波防災地域づくり地区カルテの作成	
1-1 地区カルテの考え方と構成	…1
1-2 各地区のカルテ(案)	…2
2 地区の津波避難計画の作成	
2-1 地区の津波避難計画の考え方	…4
2-2 地区の津波避難計画のイメージ	…5
2-3 今後のスケジュール	…7

# 1 津波防災地域づくり地区カルテの作成

## 1-1 地区カルテの考え方と構成

### 地区カルテの考え方

- 浜松市津波防災地域づくり推進計画に基づき、「津波防災地域づくり地区カルテ」を作成する。
- 地区カルテは、津波浸水想定を踏まえた地区の課題や対策の進捗などに関する情報を掲載したもので、地域の方々に提供し、地域の方々が自助・共助の取組みに役立てることを目的とする。
- 地区カルテの作成単位は、推進計画区域内に位置する町丁目を対象とした全20地区とする(図1)。なお、地区境界となる町丁目については、浸水の状況と周辺の土地利用(住宅市街地の有無など)を考慮して境界を設定している。

### 地区カルテの構成

#### 1. 地区特性

- 地区の地形・地質、静岡県第4次地震被害想定における震度、液状化及び津波浸水想定、津波避難場所などの地区の被害様相及び特徴を記載

#### 2. 基本的な条件(人口・面積)

- 地区の基礎情報として、対象の町丁目、地区内人口、地区面積、人口密度、また基本的な津波浸水のリスク情報として、静岡県第4次地震被害想定における南海トラフ巨大地震(レベル2)の津波浸水想定区域、浸水深及び地区面積に対する浸水想定区域の比率を記載

#### 3. 津波避難場所リスト

- 地区内に立地している津波避難場所のリスト(名称、避難面積、避難フロア)を記載

#### 4. 津波防災上の主な課題

- 津波浸水の状況などを踏まえた想定しうる津波防災上の主な課題を記載

#### 5. 主な対策の進捗状況

- 津波防災上の課題を踏まえたこれまでの自助、共助、公助の対策の実施状況を記載。また、カルテ作成時において当面5年程度で実施予定の対策内容(予定)を記載

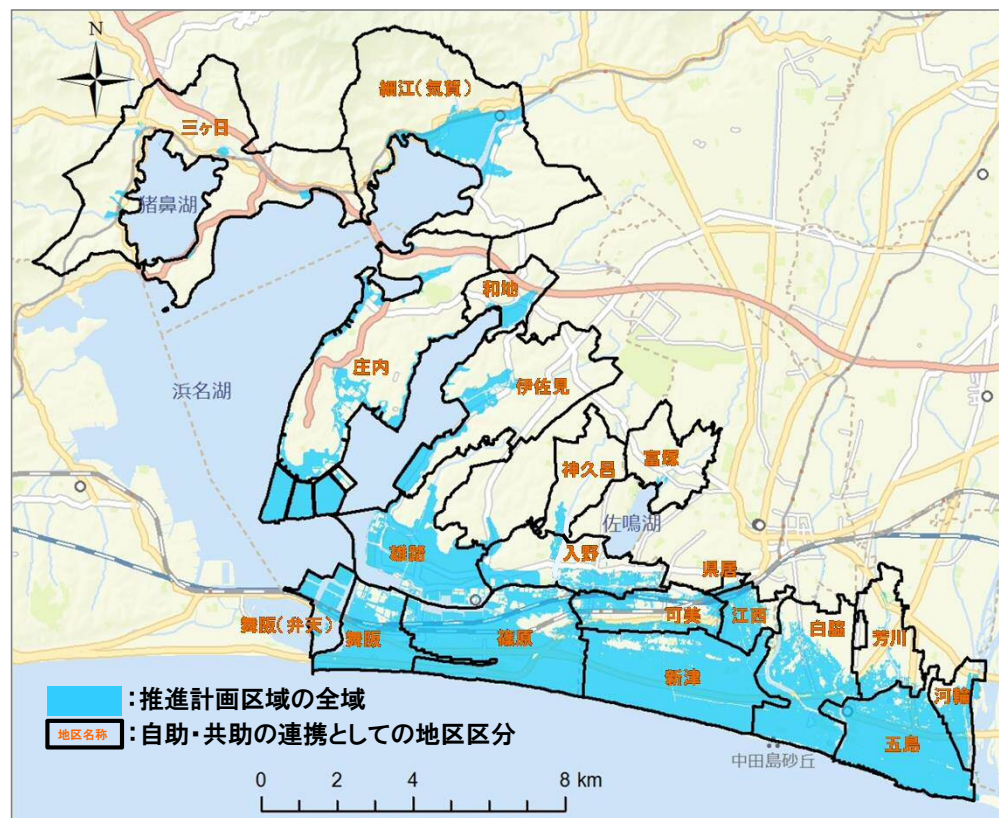


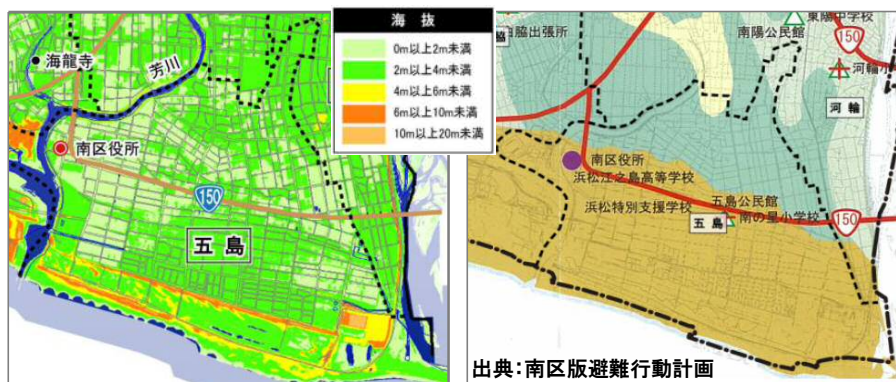
図1 地区の区分



〇〇地区 津波防災地域づくり地区カルテ

1. 地区特性

<地形・地質の状況>



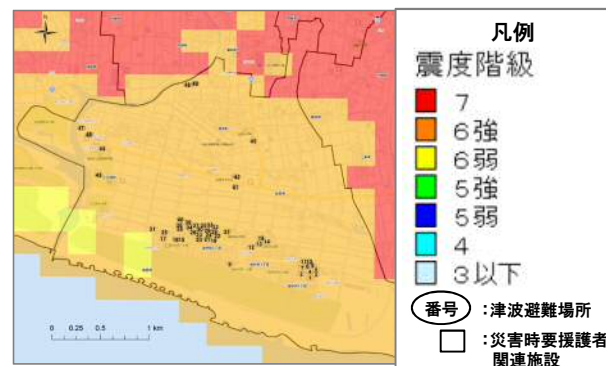
出典: 南区版避難行動計画

【地形・地質の特徴】

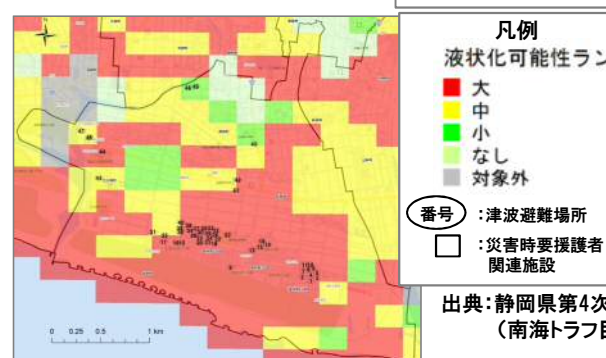
- ▶ 地区の大部分は、海拔4m未満の平坦地が広がっている
- ▶ 海岸沿いは、中田島砂丘など海拔6~10m程度の自然堤防が続いている
- ▶ 遠州灘沿岸は、砂・礫混じり砂の砂質地盤となっている

時代	地盤	地形	構成する地質
沖積層	泥質地盤	低地	シルト質・シルト
	泥砂礫質地盤		シルト・粘土・腐植土・シルト質砂
	砂質地盤	砂・礫混じり砂	
洪積層	礫~砂礫質地盤	台地	砂・礫混
	低位段丘堆積物(礫層)		礫混・砂
	中位段丘堆積物(礫層)		礫混・砂
	中・高位段丘堆積物		シルト・粘土・砂
	高位段丘堆積物(礫層)		礫混・砂

<地区の被害様相① 震度分布・液状化可能性分布>



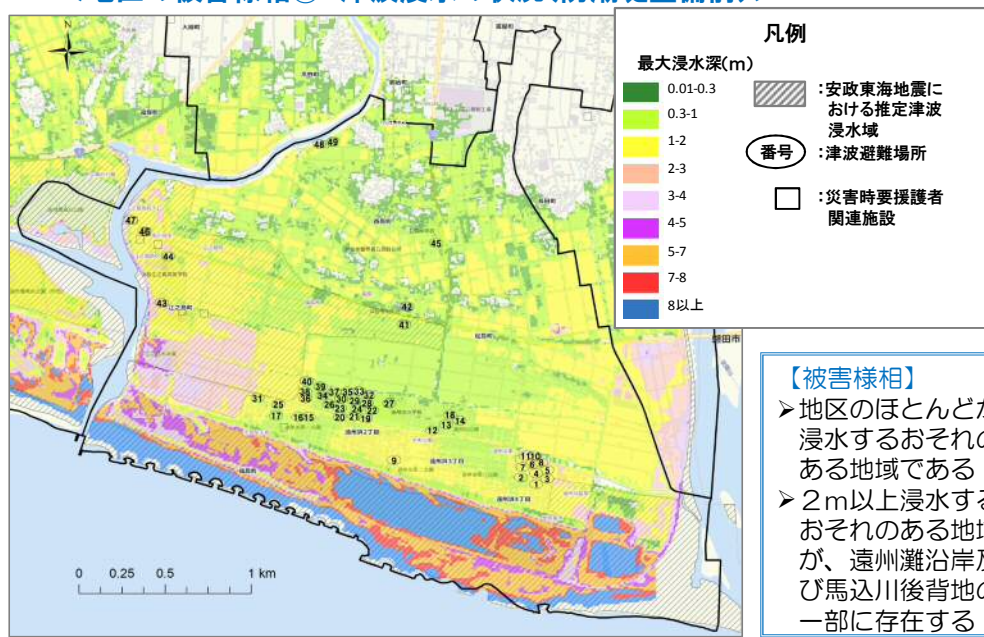
【被害様相】  
▶ 地区の一部に震度「6弱」の地域が見られるものの、地区のほとんどが「震度6強」の地域となっている



【被害様相】  
▶ 遠州浜団地周辺には液状化可能性「大」の地域が多い  
▶ 馬込川河口部で液状化可能性が「中」~「大」の地域が多い

出典: 静岡県第4次地震被害想定(南海トラフ巨大地震陸側ケース)

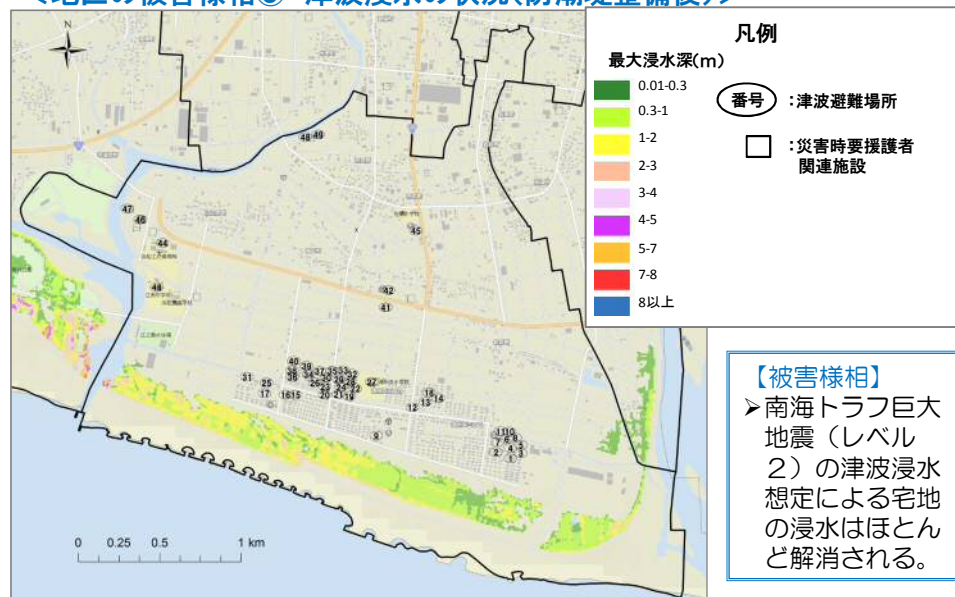
<地区の被害様相② 津波浸水の状況(防潮堤整備前)>



【被害様相】  
▶ 地区のほとんどが浸水するおそれのある地域である  
▶ 2m以上浸水するおそれのある地域が、遠州灘沿岸及び馬込川後背地の一部に存在する

出典: 静岡県第4次地震被害想定(南海トラフ巨大地震(レベル2)の津波浸水想定ケース①)

<地区の被害様相③ 津波浸水の状況(防潮堤整備後)>



【被害様相】  
▶ 南海トラフ巨大地震(レベル2)の津波浸水想定による宅地の浸水はほとんど解消される。

出典: 静岡県提供データ(静岡県交通基盤部)

## 2. 基本的な条件(人口・面積)

対象の町丁目
西島町、松島町、江之島町、福島町、遠州浜一丁目、遠州浜二丁目、遠州浜三丁目、遠州浜四丁目

※地区内人口・地区面積は平成22年度国勢調査の小区分データ(GISシェイプデータ)より算出

地区の基本情報※	
①地区内人口	9,374人
②地区面積	7.2km <sup>2</sup>
③人口密度(①/②)	1,302人/km <sup>2</sup>
④南海トラフ巨大地震(レベル2)の津波浸水想定区域	6.2km <sup>2</sup>
⑤地区面積に対する浸水想定区域の比率(④/②)	86%

## 4. 津波防災上の主な課題

津波防災上の主な課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 地区のほとんどが発災直後に震度6強の強い揺れに襲われるため、津波避難を円滑にするための住宅の耐震対策や家具の転倒防止対策など、揺れへの対策が必要である。</li> <li>➢ 2m以上浸水するおそれのある地域は、遠州灘沿岸及び馬込川後背地の一部と限定的であるが、地区のほとんどが浸水するおそれがある。床下・床上まで浸水する建物においては、生活再建への影響が懸念される。このため、既存建物の建替え時には、宅地・建物の嵩上げや1階部分をピロティ化するなど自助による建て方・住まい方の工夫が必要である。</li> <li>➢ 遠州浜団地周辺は津波避難場所が確保されている。ただし、天竜川、馬込川後背地では、津波避難場所が少ない状況である。このため、それらの地域については、地域住民で津波避難ルールや避難先を検討し、津波避難訓練により津波避難方法を確認する必要がある。</li> <li>➢ 災害時要援護者関連施設では、周辺の津波避難場所への避難方法や浸水区域外への避難手段等をあらかじめ確保する必要がある。</li> </ul>

## 5. 主な対策の進捗状況(平成26年4月時点)

役割分担	～25年度	26～31年度(予定)	32～36年度	37～41年度	42～46年度	47～51年度
自助	<ul style="list-style-type: none"> <li>■家の耐震対策(82% 浜松市H20年度末)</li> <li>■家具の転倒防止対策(55.5% 平成25年度市民アンケート)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□左記の対策を継続する</li> <li>□宅地・建物(家屋、事業所)等の地盤の嵩上げ・ピロティ化の実施</li> </ul>	—	—	—	—
共助	<ul style="list-style-type: none"> <li>■津波避難訓練の実施</li> <li>■防災講座(地震・津波)の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□左記の対策を継続する</li> <li>□地区による津波避難計画の作成</li> <li>□社会福祉施設の津波避難行動マニュアルの整備</li> </ul>	—	—	—	—
公助	<ul style="list-style-type: none"> <li>■防災講座にて区版避難行動計画の周知・啓発</li> <li>■津波避難ビル 49箇所、津波避難マウンド 1箇所</li> <li>■学校における防災教育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□左記の対策を継続する</li> <li>□浜松市沿岸域防潮堤の整備</li> </ul>	—	—	—	—

## 3. 津波避難場所リスト

番号	施設名称	棟名	避難フロア	面積(m <sup>2</sup> )
1	市営遠州浜団地	波8	3～6階通路	306
2	市営遠州浜団地	波7	3～6階通路、屋上	804
3	市営遠州浜団地	D2	階段踊場	23
4	市営遠州浜団地	C5	階段踊場	19
5	市営遠州浜団地	D3	階段踊場	23
6	市営遠州浜団地	C10	階段踊場	13
7	市営遠州浜団地	C9	階段踊場	13
8	市営遠州浜団地	C6	階段踊場	19
9	CASAMARCO		3階通路	24
10	市営遠州浜団地	C7	階段踊場	13
11	市営遠州浜団地	C8	階段踊場	13
12	県営遠州浜団地	14号棟	3～6階階段及び廊下	208
13	県営遠州浜団地	19号棟	3～6階階段及び廊下	195
14	県営遠州浜団地	15号棟	3～10階階段及びエレベーターホール	209
15	市営遠州浜団地	みどり5	3～4階通路	72
16	市営遠州浜団地	みどり4	屋内階段、EVホール	208
17	市営遠州浜団地	光5	階段踊場	35
18	県営遠州浜団地	21号棟	3～10階階段及びエレベーターホール	206
19	UR都市機構遠州浜団地	2号	3～5階階段踊場	47
20	市営遠州浜団地	C1	階段踊場	19
21	UR都市機構遠州浜団地	1号	3～5階階段踊場	47
22	UR都市機構遠州浜団地	4号	3～5階階段踊場	47
23	市営遠州浜団地	C2	階段踊場、屋上	205
24	UR都市機構遠州浜団地	3号	3～5階階段踊場	35
25	市営遠州浜団地	光8	階段踊場	46
26	市営遠州浜団地	C3	階段踊場	24
27	(旧)遠州浜小学校	南棟	3～4階普通教室・特別教室・廊下、屋上	2675
28	UR都市機構遠州浜団地	6号	3～5階階段踊場	35
29	UR都市機構遠州浜団地	5号	3～5階階段踊場	47
30	市営遠州浜団地	C4	階段踊場	19
31	市営遠州浜団地	光3	階段踊場	58
32	UR都市機構遠州浜団地	8号	3～5階階段踊場	47
33	UR都市機構遠州浜団地	7号	3～5階階段踊場	47
34	県営遠州浜団地	7号棟	3～4階階段	34
35	市営遠州浜団地	D1	階段踊場	23
36	県営遠州浜団地	1号棟	3～4階階段	34
37	県営遠州浜団地	10号棟	3～4階階段	22
38	県営遠州浜団地	2号棟	3～4階階段	26
39	県営遠州浜団地	5号棟	3～4階階段	34
40	県営遠州浜団地	3号棟	3～4階階段	34
41	南の星小学校		3～4階普通教室・特別教室・廊下・更衣室、屋上	2930
42	五島公民館		3階図書室、事務室屋上	402
43	江南中学校	南棟	3～4階普通教室・特別教室・廊下、屋上	2437
44	浜松江之島高等学校	南館	3階普通教室、屋上	715
45	五島地区津波避難マウンド			1000
46	南区役所		屋上、3階ホール	1229
47	浜松福祉協働センター(アンサンブル江之島)		3～6階:ロビー、南廊下、北廊下 6階:娛樂室、ミーティングルーム、男子更衣室、男子浴室	609
48	ケアハウス西島		3～5階談話ホール、屋上	652
49	特別養護老人ホーム西島寮		3階通路	215

※印は非公表の津波避難ビル



## 2 地区の津波避難計画の作成

### 2-1 地区の津波避難計画の考え方

- 津波避難対策では、避難先・避難経路・避難方法などについて、地元の情報を共有し、地区の中で避難手順を検討するが重要である。
- 市は、地区の熟度に合った津波避難に係る知識や理解を深める活動を自主的に取組んでいけるよう、津波防災地域づくり地区カルテの提供をはじめ、自助・共助の取組みを支援していく。取組みを継続することで、地区住民の理解や熟度の段階的な向上を図り、地区の津波避難計画の作成につなげていく。
- 地区の津波避難計画は、住民自らが作成し、自らの判断で即座の避難行動がとれるようにするために作成するものである。
- 地区の津波避難計画は、津波避難訓練の取組み単位である**単位自主防災隊**での作成を促す。
- 地区の津波避難計画の作成を通じ、地区の防災まちづくりへ発展させる。

防災まちづくりの課題を  
STEP2～STEP5にフィードバックして  
まちを改善していく！

#### STEP5「防災まちづくりへの展開」

地域で取組み、円滑に避難できる津波に強いまちをつくる！

- 津波避難経路の危険箇所を改善する
- 津波浸水から住宅を守るため基礎の嵩上げや1階をピロティ化した建物へ更新する など

#### STEP4「地区の津波避難計画として取りまとめ」

地域における  
段階的な  
津波避難の取組

#### STEP3「確認・訓練をする」

現地確認や津波避難訓練をしよう！

- 地区を歩き、危険な場所を確認
- 避難場所までの時間を確認 など

課題を地域で共有し、  
STEP2～STEP4を  
繰り返し行い、少しずつ  
地域の津波避難体制の  
レベルを上げていく！

#### STEP2「話し合う」

避難場所や避難経路を図面に記入しよう！

- 過去の地区の災害情報、危険な箇所
- 避難場所・安全な避難経路
- 避難方法 など



#### 地区別カルテ(市が作成)

- 津波浸水想定区域図
- 津波防災上の課題
- 施策の進捗状況 など

地域に提供  
地域の取組を支援

#### STEP1「知る」

地域の津波浸水リスクを地域で共有しよう！

- 津波浸水域
- 近くに逃げられる高台や高い建物
- 逃げるまでの時間 など

# 〇〇町自主防災隊 津波避難計画

## 1. 津波避難のスローガン（地区目標）

若者からお年寄りまで地区全員が一丸となり、助け合いの精神で津波から命を守る努力をしよう！

## 2. 〇〇町 津波避難計画図



最大浸水想定深	1. 8m
沿岸までの津波到達時間	20分

## 2. 基礎データ

地域の世帯数、人口、災害時要援護者の人数など、基礎的な情報を記載する

居住人口	65歳以上人口	災害時要援護者数	幼児・児童数
2000人	200人	50人	30人

## 3. 地域での備えと当面の取組み

地区目標の達成に向けて、津波から逃れるために自分で準備すること、地区で準備することなど、地区で話し合ったことを記載する

### <備え>

自助	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭において地震発生時の避難や安否確認方法を確認する</li> <li>○家具の転倒防止対策を徹底する</li> <li>○住宅の耐震性を確保する</li> <li>○夜間避難に備え、懐中電灯などを準備する など</li> </ul>
共助	<ul style="list-style-type: none"> <li>○在宅の災害時要援護者の情報を地域で共有する</li> <li>○津波避難経路の危険箇所を改善する</li> <li>○防災倉庫が浸水しないよう上層階へ移動する</li> <li>○地区公民館が津波避難場所として機能するよう、1階をピロティ化した建物への更新を行う など</li> </ul>

### <当面の取組み>

地区目標の達成に向けた今後の取組など、地域で話し合ったことを記載する

- 毎年避難訓練を実施し、訓練後に訓練成果の確認、要援護者の避難の課題について話し合う場を持ち、改善を図る
- 市の防災講座を活用し、地区内で津波避難に関する勉強会を実施するなど

## 4. 地域の避難方法

### <避難方法>

地域における避難ルールや避難の際の留意事項などを記載する

- 大きな揺れを感じたら、すぐ避難！
- 「津波だ！ 逃げろ！」と大声で避難する
- 交通渋滞・避難の障害となるため、歩ける人は歩いて避難 など

## 5. 避難する時のポイント（地震・津波から身を守る7ヶ条）

- ① 寝る部屋は安全な場所に／枕元懐中電灯などを
- ② 家から外に出るまでの安全ルートを確認
- ③ 津波からの避難場所を決め、現地へ避難
- ④ 「津波だ 津波だ」「逃げろ」と呼びながら率先して避難
- ⑤ 想定にとらわれず、可能な限り高い場所へ避難
- ⑥ 津波警報が解除されるまでは避難場所から自宅に戻らない
- ⑦ 携帯ラジオなどで情報収集



## 6. 津波に関する情報について

- 強い揺れや長い揺れ（1分以上）を感じた場合は、津波に関する情報を待たずに、すぐに津波避難場所へ避難しましょう。
- また、遠方で発生した大地震など、浜松市で強い揺れを感じなくても津波が到達する場合があります。特に津波警報や大津波警報がテレビ、ラジオ、同報無線のサイレンなどで伝えられたら、ただちに津波避難場所へ避難しましょう。
- 津波警報の内容と必要な避難行動は以下のとおりです。

名称	津波予想高さの区分 (発表する津波の高さの数値表現)		必要な避難行動	サイレン吹鳴パターン
	巨大地震の場合			
大津波警報	10m以上 (10m超) 5m~10m (10m) 3m~5m (5m)	巨大	ただちに避難施設へ避難する	 (3秒鳴) (2秒休) ⇒9回繰り返し
津波警報	1~3m (3m)	高い		 (5秒鳴) (6秒休) ⇒9回繰り返し
津波注意報	0.2~1m (1m)	—	ただちに海の中や海岸から離れる	 (10秒鳴) (2秒休) ⇒9回繰り返し

・地震に関する情報、最新の災害は以下から入手できます。

種類	情報先	入手方法	入手できる情報
FMラジオ	エフエム ハロー FM Haro !	周波数76.1MHz	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害情報</li> <li>・避難所開設状況など</li> </ul>
インターネット	浜松市 Yahoo! ブログ 防災気象情報 (気象庁)	<input type="text" value="浜松市の災害情報 ブログ"/> <input type="button" value="検索"/> <input type="text" value="防災気象情報"/> <input type="button" value="検索"/>	
電子メール	浜松市 防災ホットメール	登録方法は <input type="text" value="防災ホットメール"/> <input type="button" value="検索"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所開設状況など</li> </ul>
電話	災害伝言ダイヤル	ダイヤル「171」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安否確認</li> </ul>

## 2-3 今後のスケジュール

- 平成26年度については、単位自主防災隊1～3隊をモデル隊として選定し、津波避難計画の作成の流れ、必要資料の準備と要領を作成する
- 平成27年度以降については、20地区の単位自主防災隊に逐次拡大し、地区の津波避難計画を作成する
- 作成メンバーとしては、自主防災隊、民生・児童委員、小中学校・幼稚園・保育園、事業者などで構成する

年度	H26年度				H27年度～
月	4～6	7～9	10～12	1～3	
STEP1 「知る」 推進計画 の周知・啓発					20地区の単位自主防災 隊が逐次作成
作成要領 モデル隊の選定					
STEP2 「話し合う」 地域特性・津波避難 図の作成					
STEP3 「確認・訓練をする」 津波避難訓練					
STEP4 「地区の津波避難計 画として取りまとめ」 津波避難計画					